

# グリーントップ応援団通信

平成28年  
1月17日発行  
第43号

## 仏像はもとの場所へ

石見美術館学芸課長 椋木賢治

おかげさまで開館十周年記念企画展として開催しました「祈りの仏像 石見の地より」では連日、多くのお客さまで賑わい、全国各地から二万人ものご来館をいただきました。知っている方では、青森からわざわざこの観覧のためだけに来てくださった方もいました。聞いた話のなかでは、大阪から夜行バスで早朝、益田に到着し、朝の開館と同時に入場され、昼食もとらずに一日かけてご覧になり、その日の夜行バスで再び大阪に帰ったという方もおられたそうです。すでに「このような仏像展をまた見たい」との声をいただいていることも誠にありがたいことです。

展示室に並んでスポットライトを浴びていた仏像も、昨年のうちにはもとのお寺に無事、帰っていかれました。心なしかいずれのお像もほっとなさった様子。お寺の方々からは、お像が留守の

あいだ、寂しい思いをされていたとお話も伺いました。このたび初めてお寺を出た仏像も少なくなく、さぞかし心配だったことでしょう。仏像は人ではありませんが、その不在を寂しく思うところは通じるようです。

こちらは受け入れる側でしたが、送り出す側の方々のお気持ちを考えますと、また別の感慨があったこととお察しします。あるべき場所にあることの安心感をあらためて大きく感じられたことでしょう。展示のために留守にしていたしばらくの間、そこにはないことよって、いつもあることのありがたさをはっきりと感じられたのではないのでしょうか。数百年に渡ってそこにあり続けること、日常の感覚からはちよつと想像もできないスケール感のわずかな一

端にふれるような、そんな機会が生まれたようにも思います。

展示会でわりと多く伺った質問が、仏像表面の金箔や彩色はオリジナルなのかということでした。ほとんどの場合、表面の仕上げは古くても江戸時代くらいに補修されたものが多く、新しいものではほんの数年前に塗り直したというものもありました。お像自体、数百年の月日を経ているとはいえ、造立当初のお姿そのままというわけにはいきません。時代時代で人々から大切にされて、修理され、守られながら今に至っているから遺っているわけです。その絶えざる積み重ねを経て、いま私たちの眼前にあらわれていたのですね。



「婦人像」 東郷青児



「旅亭涼宵」 小早川清



市民に親しまれる“おろち君”



玄関ロビーの生花

指揮…下野 竜也

ピアノ…牛田 智大

3月6日(日)午後2時00分開演

情報発信ボランティア 大庭 明 博

演奏曲目を簡単にご紹介します

◎シヨパン ピアノ協奏曲第1番 小短調

シヨパンは1810年、ポーランドのワルシャワ近郊の村で生まれました。ドイツでは同じ年にシューマンが、前年にはメンデルスゾーンが誕生しています。二十歳の時に国外での活動を求めウィーンに滞在。その頃故郷ではワルシャワ動乱が起きて、翌年パリに赴いたあと、二度と祖国の土を踏むことはありませんでした。

『鍵盤の詩人』などと呼ばれて親しまれているシヨパンですが、ピアノのための小品ばかりを創作した特異な作曲家とも言えます。ワルツ、ノクターン、バラード、エチュード、ポロネーズやソナタなどなど乙女心をくすぐるような名曲が数多くありますね。

そんなシヨパンが協奏曲を2曲残している、楽譜出版順の関係であとに作曲された

方が「第1番」となっています。2曲とも青春の日、故国ポーランド時代の創作です。

初々しいロマンティズムや作曲時20歳のシヨパンの豊かな情感の感じられるピアノ協奏曲第1番を弱冠16歳のピアニスト・牛田智大さんが演奏します。

◎ブラームス 交響曲第4番 小短調

ブラームスは1833年、北ドイツのハンブルクで生まれました。名前からしていかにも重厚なイメージを彷彿とさせるブラームスは、楽聖ベートーヴェンの九つの偉大な交響曲を強く意識し、最初の交響曲第1番の完成までになんと21年もの歳月を費やすなど、慎重な態度で交響曲の作曲に臨みました。

ブラームスは世に出るきっかけを作ってくれたシューマンと同じ4曲の交響曲を残しています。3つ目の交響曲まで

はベートーヴェンに因みそれぞれ愛称があります。第1番は「ベートーヴェンの【第九】」に続く傑作とされ「第10番」、第2番は「田園」そして第3番は「英雄」とつけられました。第4番にはありません。ベートーヴェンが書かなかったタイプの交響曲だったからです。

ブラームス最後の交響曲は作曲家の晩年の心境を反映した憂いに満ちた作品となっています。静かに過去を見つめる心境の中に孤独とか憂愁といったものが諦観をもって語られる。人生の秋を限りなく美しく、格調高く綴った味わい深く聴き応えある交響曲です。

ブラームスの交響曲が益田で演奏されるのは私の知る限り今回が初めてだと思います。来し方行く末の感慨を胸に思い起こしながら、ロマン派交響曲のクライマックスを極めた名曲を楽しめればと思います。



「池畔春興」榎本千花俊



【あ】 【と】 【が】 【き】

新年明けましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

例年になく過ごしやすなお正月でした。鎌手の水仙の里に家族と出かけました。温かい気候と地元の方々の手入れのおかげで素晴らしい満開の水仙を楽しむことが出来ました。沢山の見物客でした。

さて、応援団通信は今回からカラー印刷となり、特に写真がきれいになりました。

また美術館からのお年玉は開催中の「美人画館」展です。40点余りの洋画、日本画などそれは見ごたえのある有名な作品ばかりです。

ぜひお出かけください。(哲)